

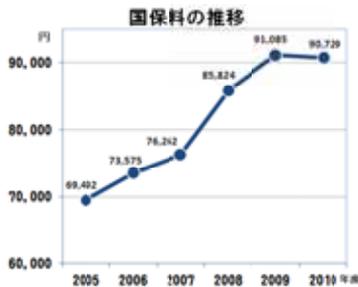
本会議で個人質問(4月14日) さはしあこ議員

高すぎる国保料を引き下げよ 「国保料の認識は同じ」と市長が答弁

4月14日の本会議で、さはしあこ議員は国保料引き下げと市バス路線の運行見直しを求めて質問し、みなさんの意見を市政に生かすために全力を尽くしました。

払えないほど高くなった国保料

「市民税10%減税で暮らしが楽になった」という声より「国保料が高すぎて払えない」という悲鳴の声が圧倒的です。5年前に、約7万3千円だった平均保険料が、今年度は約9万円と2万円近くも値上げされました。この間の国保加入者の平均所得は30万円以上減っています。世帯主40歳で配偶者、子ども二人で年間収入400万円の世帯の国保料は約41万円。年収に占める保険料の割合は、1割を超えます。滞納世帯は7万7千世帯と2割を超えています。さはし議員は「滞納は、払わない人の問題ではなく、払えないほど高すぎる国保料そのものの問題と言わざるをえない」と指摘しました。



国庫負担削減をやめさせよ

名古屋市は、所得激減などでの減免の拡充や、保険料軽減のため均等割3%引き下げ、剰余金繰り越しなどを行っていますが、その効果は一人数百円程度です。さはし議員は、保険料が高くなった根本的な問題を国庫負担の大幅削減にあると指摘し、「民主党政権は保険料軽減のために、国庫負担を約9千億円増やすという公約を守らないばかりか一般会計からの繰り入れをやめさせようとしている」ことを明らかにしました。

国保料は高すぎると思わないのか

北名古屋市は、昨年、4人家族で平均3万5千円の引き下げが実現しました。他の都市でも国保の引き下げに踏み切るところが出てきています。国保料一人1万円の引き下げに必要な財源は60億円です。さはし議員は、河村市長が所信表明で「厳しい経済状況の中で増税を行うならば、庶民の暮らしは今より苦しくなる」と言ったことを取り上げ、「国保料の引き上げは増税そのものだ」と追及し、「国民健康保険料は高すぎると思わないのか。国保料一人1万円を引き下げること

を決断すべきだ」と市長を追及しました。市長は「国保料の認識は全く同じ。国保料を削減してくれというのはまさにその通り。しかし減減税とは分けさせていただきたい」と答えました。さはし議員は「高すぎて払えない市民の声を、しっかりと受け止めて、国保料の引き下げを」と強く求めました。



市バス路線の運行見直しを

車がないと住みづらいと言われていた緑区に地下鉄桜通線が徳重まで延伸し、区の東部から名古屋の中心地へ出かけるには、大変便利になりました。その一方で、市バス路線が再編され、不便になった地域も生まれています。

地下鉄開通で不便になった市バス路線の再見直しを

特に高齢者が困っています。神沢地域から原駅へ行くバス路線の変更で、「遠いバス停まで長い坂道を歩くか、1時間に1~2本のバスに乗り継がなくてはならなくなった」、地下鉄の延伸で便利になったと思われる地域でも、「バス経路の変更で、乗り継がないと病院にいけなくなった」という例があります。さはし議員は「今までどおりであってほしいというささやかな願いだけです」と言う住民の切実な声を伝え、「再度路線を見直せ」と迫りました。局長は「利用状況の把握に努めたい」と答えました。

巡回バスの始発時間を早めよ

地域巡回バスは、各区内の駅・役所・病院などを運行する路線ですが、始発が9時台です。緑巡回バスは名鉄有松駅発の始発が9時18分、役所や病院などの開始前に間に合いません。さはし議員は「市民の生活、暮らしに密着した運営であるならば、生活の利便性を第一に考え、少なくとも始発時間を8時台にすることは出来ないのか」とたどしました。さはし議員は「早急に路線・運行の見直しをせよ」と求めました。局長は「実情をよりきめ細かく調査し、結果を踏まえて検討したい」と答えました。